

## 2022 年度 小委員会活動成果報告

(2023 年 2 月 7 日作成)

小委員会名	木質構造設計規準等検討小委員会	主 査 名：河合直人 就任年月：2022 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (木質構造運営委員会)	委員長名：五十田博 (主 査 名：腰原幹雄)
設 置 期 間	2022 年 4 月 ～ 2025 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>「木質構造設計規準・同解説」(以下、「木規準」)の査読対応等の改定作業を継続するとともに、木規準改定に関連して必要となる出版物の改訂作業を行う。併せて、今後の出版物等の方向性について議論し、長期的な出版計画案を策定する。</p> <p>初年度：木規準の査読対応等の改定作業を継続するとともに、「木質構造接合部設計事例集」(以下、「事例集」)等の関連する出版物の改訂作業に着手する。</p> <p>2 年度：木規準関連の出版物の改訂作業を継続するとともに、木質構造関連の学会出版物の全体構成を再検討し、今後の出版計画の検討に着手する。</p> <p>3 年度：木質構造関連の規準類の今後の出版計画の検討を継続し、具体的な内容についての議論を行う。特に終局状態を考慮した耐震設計法についての出版物の検討を行う。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：河合直人 (工学院大学) 幹事：青木謙治 (東京大学)、小林研治 (静岡大学大学院) 委員：秋山信彦 (国総研)、荒木康弘 (国総研)、五十田博 (京都大学)、岡部実 (ベターリビング)、小谷竜城 (エヌ・シー・エヌ)、貞広修 (清水建設)、榎本敬大 (建築研究所)、中川貴文 (京都大学)、三宅辰哉 (日本システム設計)、宮武敦 (森林研究・整備機構)、村上雅英 (近畿大学)、安村基 (静岡大学名誉教授)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>木質構造接合部設計事例集改訂 WG：木規準の改定内容を反映した事例集の改訂原稿の作成を行う</p> <p>木質構造材料設計規準 WG：木質構造材料についての技術資料の出版に向けた原稿作成を行う</p> <p>木質接合部割裂強度算定法検討 WG：木質構造における割裂強度の算定法の検討を強度試験に基づいて行う。</p>	
2022 年度予算	70,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	なし
講習会	なし
催し物 <small>*能力開発支援事業委員会承認企画</small>	なし
大会研究集会	1. パネルディスカッション「木造建築多様化時代における木質構造材の特性値の課題と方向性」 参加者数 237 名 『同名資料』
対外的意見表明・パブリックコメント等	なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1. 木規準の改定原稿については、原稿の追加修正作業に終始し、木質構造運営委員会および構造本委員会における査読は次年度に先送りされた。</p> <p>2. これに伴い、木規準の改定を反映した事例集の改訂原稿作成も遅れている。</p> <p>3. 木質構造材料については、大会 PD を開催し、その資料としてこれまでの検討内容のとりまとめを行った。</p>
委員会活動の問題点・課題	1. 近年得られた知見に併せるため、原稿の追加修正項目が増大しており、一次原稿の作成が遅れているが、次年度早々に査読に掛けられるよう鋭意努力中である。